

欧州における高齢化社会②（フィンランド）

フィンランドの概略

情勢：北欧に位置、欧州連合加盟国

総人口：540 万人

人口密度：18.1 人/km²

首都：ヘルシンキ、市内人口：60 万人

首都圏人口：130 万人

公用語：フィンランド語、スウェーデン語

地方自治体の構成：一層制を基本、342 のクンタ（フィンランド語で Kunta または Kaupunki）で構成

1 フィンランドにおける高齢化の状況^{1 2 3 4}

フィンランドは、北欧の隣国のスウェーデン、ノルウェー、デンマークとともに、高齢化が進んでいる。フィンランドの合計特殊出生率（2013 年 1.9（WHO2015））は、同じ欧州のドイツ（同 1.4）、ポルトガル（同 1.3）、スペイン（同 1.5）に比較すれば高いが、若い世代の海外への人口流出と長寿命化の影響を相殺するには十分ではない。⁵

北欧諸国は、欧州の中で、55 歳から 64 歳までの年齢層つまり定年が間近に迫る世代の人口が最も大きくなっており、特にフィンランドの北部と東部でこの傾向が顕著である。

フィンランドにおいても、他の先進諸国と同様に、若い世代の居住が都市部に集中するのに対して、人支部では高齢者の比率が高い。フィンランドは人口密度が低い国であるが、2013 年には総人口の 85%がフィンランドの総面積のたった 2%を占めるに過ぎない都市部に居住している。⁶

¹ <http://vm.fi/en/municipal-structure>

² https://www.suomi.fi/suomifi/english/state_and_municipalities/municipalities_and_local_government/index.html

³ <http://www.visithelsinki.fi/en/come/welcome-to-helsinki/helsinki-and-finland-in-figures>

⁴ <http://finland.fi/facts-stats-and-info/finland-in-facts-2/>

⁵ http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/170250/1/9789240694439_eng.pdf?ua=1&ua=1

⁶ http://www.stat.fi/til/vaerak/2013/01/vaerak_2013_01_2014-09-26_tie_001_en.html

2007年の時点で、フィンランドがまだロシア帝国の大公国であった1809年から1917年までに生まれた人は、約3万2千人いた。2065年には、100歳以上の人口が、2015年時点に比べて10倍まで増え、8000人に達成すると予測されている。^{7 8}

フィンランドに健康で長寿の高齢者が大勢いるのは、国民皆年金や障害給付金をはじめとする同国が誇る北欧型社会福祉制度が一因であると言われている。しかしながら、フィンランド政府の統計等から見れば、フィンランドの高齢化の速度は、同国の社会福祉制度の許容度を上回るおそれがあり、同国の行政機関や経済界に不安がないわけではない。

フィンランドでは、2015年には65歳以上の高齢者が総人口の20.2%を占めた。これは、2002年の15.8%から著しく増加しており、OECD（経済協力開発機構）諸国の平均約15%を上回っている。^{9 10 11 12 13 14}

OECDの統計によると、フィンランドの高齢者介護サービス費は、2010年対GDP比で2.1%である。これは、OECD諸国の平均1.6%を上回るが、同じ北欧の隣国スウェーデン（3.6%）、ノルウェー（2.36%）、デンマーク（2.38%）より低い。¹⁵

2 フィンランド政府による高齢化対策

フィンランドの高齢者向けの保健・福祉サービスは、国レベルで定めた法律に基づいて、342のクンタ（市に相当する地方自治体）に実施が義務付けられている。その資金源は、中央政府から地方自治体への交付金、地方自治体が徴収した税金及び受益者負担金である。

地方自治体は、高齢者ケアサービスを当該地方自治体単独または他の地方自治体と協力して提供することができる。また、地方自治体は、他の公的機関や民間のサービス提供機関に高齢者ケアサービスの提供を委託することが可能であり、受益者（高齢者）にバウチ

⁷ <http://translate.google.com/translate?u=http%3A%2F%2Fwww.mtv.fi%2Fuutiset%2Fkoti%2Fartikkelit%2Fsuomen-vanhimmat-109-vuotiaita-satavuotiaita-enemman-kuin-koskaan%2F5718586&hl=en&langpair=auto|en&tbb=1&ie=UTF-8>

⁸ http://www.stat.fi/tup/suomi90/joulukuu_en.html

⁹ http://www.stat.fi/til/vaerak/2013/01/vaerak_2013_01_2014-09-26_tie_001_en.html

¹⁰ http://ec.europa.eu/economy_finance/publications/european_economy/2014/pdf/ee8_en.pdf

¹¹ <http://www.theguardian.com/society/2015/mar/11/ageing-finland-remote-airbnb-education-healthcare>

¹² <https://www.oecd.org/els/health-systems/Finland-OECD-EC-Good-Time-in-Old-Age.pdf>

¹³ http://www.liminka.fi/tiedostot/Hallinto-osasto/Elinkeinot/Liminkaesite_englanti_15062012rk.pdf

¹⁴ <https://www.oecd.org/els/health-systems/Finland-OECD-EC-Good-Time-in-Old-Age.pdf>

¹⁵ <https://www.oecd.org/els/health-systems/Finland-OECD-EC-Good-Time-in-Old-Age.pdf>

ヤーを配布し、受益者（高齢者）自身が自分で好きなサービス提供機関を選択できる方法もある。

公的介護サービスは、在宅介護と施設介護の双方が提供されているが、現在の政策は在宅介護を促進している。¹⁶

フィンランドのように人口が少ない国が、高齢化が進展する中で労働人口を維持していくためには、労働条件の改善（フレックスタイム制などの導入）に加えて、高齢者が長く働き続けることができるようにするための労使協力、使用者と高齢者ケアサービスとの間の密接な協力が必要であると考えられている。（フィンランドでも、他の欧州諸国と同様に、20歳から44歳の年齢層は移民が多く占めており、高齢者が長く働き続けることができるようにするだけでなく、より多くの移民を受け入れることによって不足する労働力を補完する必要性についても継続して議論されている。¹⁷しかしながら、シリア等の難民危機が続く中で、欧州各国で移民政策のあり方が争点化している状況に鑑みると、移民の受入れを高齢化社会の万能薬として考えるのは単純に過ぎる。また、熟練労働者の誘致にあたっては欧州各国間に激しい競争があり、この点において、フィンランドを含む北欧諸国は必ずしも有利な立場にあるわけではない。¹⁸また一方で、若年者の失業率（20.9%）が全体の失業率（9.3%）より高いことは、フィンランドにおいても他の欧州諸国と同じであり、一方で若年者の雇用対策も喫緊の課題となっている。^{19,20}

高齢者向け保健・福祉サービスの都市部と非都市部の条件格差は、欧州共通の課題であるが、中でもフィンランドにおいては切実な問題である。フィンランドの非都市部では、従来の伝統的な生活様式はもとより、かつて盛んだった漁業や林業も衰退しつつある。また、北極圏付近の地域では、高齢者の保健に必要な病院が45kmから100km離れた所にしかないことも珍しくない。非都市部では、人口（受益者）が少ないため、財政上の理由から学校が閉鎖されたり、様々な公共事業が廃止されることがある。^{21 22}

フィンランドでは、OECD諸国の中でも珍しく、OECDによる高齢者ケアの品質向上のためのフレームワーク（National Quality Framework for Care of Older People）を採用している。同フレームワークでは、予防治療や早期介入、介護福祉士等の高齢者ケアに携わる人の質

¹⁶ <https://www.oecd.org/els/health-systems/Finland-OECD-EC-Good-Time-in-Old-Age.pdf>

¹⁷ <https://www.towerswatson.com/en/Insights/Newsletters/Global/global-news-briefs/2014/12/finland-pension-reforms-imminent-for-2017>

¹⁸ http://www.migrationinstitute.fi/files/pdf/artikkelit/labour_market_participation_of_immigrants_in_finland_and_its_regions.pdf

¹⁹ <http://www.tradingeconomics.com/finland/youth-unemployment-rate>

²⁰ <http://www.tradingeconomics.com/finland/unemployment-rate>

²¹ <http://www.maaseuduntulevaisuus.fi/maaseutu/kouluja-suljettiin-mutta-kuljetettävien-määrä-väheni-1.24961>

²² http://www.mua.fi/SIRA_Files/downloads/Arkisto/MUA_lehti/2010/mua_2010_1_a_Tedre.pdf

の保持が重要な柱として掲げられている。フィンランドの社会保健省は、地方自治体が提供する高齢者向け保健・福祉事業の地域的な格差を避けるために、地方自治体を対象とする指針を発表し、目標設定を行っている。介護福祉士等の高齢者ケアに携わる人に対する3年間の国が定めた研修カリキュラムも実施されている。²³

年金制度改革

フィンランドでは、労働者の雇用条件に関する制度変更が、労使の「社会対話」(social dialogue)によって解決されてきた慣行がある。高齢者がより長く働き続けることを促すとともに、年金財政の健全性・持続可能性を維持するための年金受給開始年齢の引上げを巡っては、過去に労使が衝突したこともあったが、2014年に労使が合意した。

この合意内容が盛り込まれた被用者年金制度の改革により、2017年から次のような制度変更が実施される。²⁴併せて、年金に関連する法律の条文も整理される。²⁵

- ・老齢年金の受給を開始できる最低年齢 (minimum retirement age) を現在の63歳から段階的に65歳に引き上げるとともに、老齢年金の受給を開始できる最高年齢 (maximum retirement age) を現在の68歳から段階的に70歳に引き上げる。(現行制度で老齢年金の受給を請求できるのは63歳から68歳までの間であるが、フィンランド年金情報センターの統計によると、被用者年金加入者の実際の平均引退年齢は60.9歳(2013年)である。)

- ・労働者の労働期間と年金受給期間の比率を2025年の水準で維持するため、老齢年金の受給を開始できる年齢を2027年から平均余命の伸びにリンクさせる。見直しは、5年毎に行われる。

- ・現在のパートタイム引退オプション (part-time retirement option) を、61歳からの部分的な早期引退年金に置き換える。これは、年金の25%又は50%について、老齢年金の受給を開始できる最低年齢65歳からの前倒し1月につき0.4%削減された年金が支給される。

- ・2017年から2025年にかけて、通常の1.5%より高く設定されている53歳以上の被用者年金加入者の年金運用率の上乗せ分を段階的に削減する。

²³ <https://www.oecd.org/els/health-systems/Finland-OECD-EC-Good-Time-in-Old-Age.pdf>

²⁴ <http://www.eurofound.europa.eu/observatories/eurwork/comparative-information/national-contributions/finland/finland-the-role-of-government-and-social-partners-in-keeping-older-workers-in-the-labour-market>

²⁵ http://stm.fi/en/article/-/asset_publisher/miten-elakeuudistus-on-vahentanyt-lakipykalien-maaraa-

・老齢年金の受給開始最低年齢 65 歳より遅く年金の受給を開始する場合には、後倒し 1 月につき 0.4%増額された年金が支給される。

この年金制度改革が行われることにより、フィンランドの年金の将来収支ギャップが同国 GDP の約 1%分改善されると予測されている。²⁶

高齢者運動促進プログラム

高齢者がより長く健康に生活できるようにするため、フィンランドでは、国策として「高齢者運動促進プログラム」(The National Policy Programme for Older People's Physical Activity)を教育文化省が推進している。²⁷同プログラムでは、高齢者を単なるケアの対象ではなく、他の年齢層と同じく自らの健康に対して自ら責任を負うべきものとして、自助努力を促している。その基本的な考え方は、次のとおりである。

- 高齢者の身体機能の維持、運動の促進について、十分に法律と地方自治体の高齢者福祉政策に盛り込まれること
- 各種施設へのアクセスを高齢者に利用しやすいようにするとともに、高齢者に利用しやすい歩道や自転車レーン、室内外の運動施設を確保すること
- 地方自治体において高齢者の運動をカウンセリングすること
- 高齢者にとって運動が健康な生活を営むための一環であるという一般市民の認識を高めるとともに、スポーツ関連の一般事業者に高齢者のニーズを広く周知すること

3 SANF –地方自治体からはじまったコラボレーション

フィンランドのノキア（通信インフラ・ソフトウェア開発）は、かつて世界最大の携帯電話端末メーカーであった。また、OS の「リナックス」やモバイルゲームの「アングリーバード」は、ハイテクの先駆者であるフィンランドで生み出された。²⁸フィンランドは、スマート・テクノロジーの新興企業の拠点である。

高齢者向け保健・福祉の分野、特に高齢者の在宅介護においては、高齢者の健康状態の把握などにスマート・テクノロジーを利用する親和性は高い。これはフィンランドに固有

²⁶ <https://www.towerswatson.com/en/Insights/Newsletters/Global/global-news-briefs/2014/12/finland-pension-reforms-imminent-for-2017>

²⁷ <http://www.minedu.fi/export/sites/default/OPM/Julkaisut/2012/liitteet/OKM17.pdf?lang=en>

²⁸ <http://teknologiateollisuus.fi/en/current/statistics>

の傾向ではないが、フィンランドのように人口密度が低く、広大な非都市部で物理的なインフラの設置に限界があるような場合には、その必要性が、高齢者向けの保健・福祉サービスの提供に責任を持つ地方自治体など関係者により顕著に認識されていると考えられる。

フィンランドでは、Smart Ageing Network Finland (SANF)という高齢者ケアの技術を共有するネットワークがこの分野で重要な役割を果たしている。SANFは、2011年に設立された高齢者の安全を確保しその活動的な生活を保護する装置を作るフィンランドの中小企業からなるネットワークである。その目標は、高齢者の生活を支えるとともに、フィンランドの中小企業を団結させ、そのビジネスを海外（特に欧州と中国）で推進することである。
29

SANFは、エスポー市をはじめとしてラウレア大学、アールト大学などの団体が連携して2008年に創設したActive Village Lifeという企業が中心となって組織されている。³⁰ ³¹
³²Active Village Lifeそのものは2012年に民営化されており、現在はフィンランドのエスポー市と中国の上海に事務所を有する民間企業である。

SANF参加企業の商品は、センサーによって高齢者の睡眠時間を測定するベッド、転倒事故を直ちに家族や介護福祉士に知らせる床センサー、携帯電話をドアの鍵にする技術など高齢者の自立を支援することを目的としたものである。³³

SANFが提供している商品は決して珍しい技術ではないが、次の二点がSANFについて特筆すべきと考えられる。

- ・このネットワークが高齢者向けの介護・福祉サービスを提供する地方自治体（エスポー市）と大学の連携を核として、さらに地元の中小企業が連携することにより発展したこと

- ・エスポー市と上海との姉妹都市関係を活かして、ネットワークに参加する地元の中小企業に海外の新しい市場（しかも高齢社会が進んでいる中国）へ参入する機会を得られたこと³⁴

²⁹ <http://www.grageproject.eu/attachments/article/28/SMART%20AGEING%20NETWORK%20FINLAND.pdf>

³⁰ <https://www.laurea.fi/en/about-laurea/laurea-as-an-organisation/organisation>

³¹ <http://www.activelifevillage.com/node/1>

³² <https://books.google.co.uk/books?id=ltDECAAQBAJ&pg=PA96&lpg=PA96&dq=Finland+smart+ageing+network&source=bl&ots=khaXqplBo&sig=JpXYKnlq11-LKDOvodSwAK7jCU&hl=en&sa=X&ved=0ahUKEwj308ycmofNAhWEvxQKHZ1XDJYQ6AEINDAD#v=onepage&q=Finland%20smart%20ageing%20network&f=false>

³³ <http://www.grageproject.eu/attachments/article/28/SMART%20AGEING%20NETWORK%20FINLAND.pdf> .

